

千葉県は、5年毎ベースでみて2020年にピークを迎える。人口を増加・維持するためには、県内各地域が持つ特性を踏まえ、スピード感を持って地方創生を進めることが重要だ。

千葉銀行が10月に発表した県内の将来人口推計(ちばぎん総合研究所が調査受託)をみると、千葉県人口(中位推計)は、5年毎のベースでみて2020年に6,269千人でピークを迎える(表1)。我が国の人口が2010年をピークに既に減少フェーズに入っていることを勘案すると、本県の人口が全国よりも10年長く増加を続けることは、千葉県のブランド力が震災を克服して維持・強化されていることを意味するものであり、大きな意義を持つ。

但し、県内を5つのブロックに分けてみると、今後の人口推移は大きく異なる。都心に近い「東京湾岸」「常磐・TX沿線」は、若者や子育て世代を中心に地方部から都市部への人口移動が続き、人口のピークは各25、20年頃とみられ、45年時点でも15年比1割弱の減少に止まる(もっとも高齢者は急増)。「アクアライン・圏央道沿線」「成田空港周辺・印旛」では10年にピークアウト後、45年時点では15年比で2割前後の減少と前2地域より人口減少が速い(空港機能強化や医療産業都市化が進む成田市<45年まで増加が続く>や、駅前再開発や工業団地整備が進む袖ヶ浦市<同25年まで>を除く)。この間、「銚子・九十九里・南房総」では人口減少が加速し、45年までの30年間に4割減少する。

今回の推計は、各地域が持つ特性をより鮮明化させるものであり、改めて地域毎の課題(都市部=高齢者対策等、地方部=人口減少対策、地方創生、広域連携化等)が浮き彫りとなった。また4年前の提言(表2)が地域活性化の方向性として正しいことが検証されたが、当時の想定を超えるスピードで人口変動が進んでいるため、提言した内容の実現を急ぐ必要があることも確認された。

県人口は今後、都市部で子育て世代等の高水準の流入が継続し、地方部では地方創生により流出が縮小する「上位推計(25年ピーク)」を目指したい。そのためには、エリア課題解決に向けた各自治体の努力が極めて重要である。合わせて、課題克服を支援するために、成田空港の機能強化や外環道・圏央道・北千葉道路等インフラ整備や京葉臨海コンビナートの再活性化・新産業振興などのほか、2020年東京オリ・パラの成功に向けた周到な準備も欠かせない。いずれにしても、地域活性化・活力維持のためには、県内それぞれの地域の「地方創生」の実現が不可欠であるということを全ての関係者が肝に銘じ、覚悟を持って取り組む必要がある。(矢野)

(表1) 県内人口の将来推計(中位推計)

(単位:千人)

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	15年比増減数	15年比増減率
千葉県	6,216	6,223	6,269	6,217	6,104	5,930	5,739	5,555	▲667	▲10.7%
東京湾岸	2,672	2,711	2,774	2,792	2,782	2,744	2,700	2,668	▲42	▲1.6%
アクアライン・圏央道沿線	829	816	803	781	751	712	673	630	▲187	▲22.9%
成田空港周辺・印旛	816	814	813	801	781	752	720	685	▲130	▲15.9%
常磐・TX沿線	1,342	1,357	1,389	1,387	1,370	1,335	1,294	1,258	▲99	▲7.3%
銚子・九十九里・南房総	558	524	490	455	420	387	352	315	▲209	▲39.9%

【出所】千葉銀行

(注) 銚子・九十九里・南房総は1985年がピーク

(表2) 「千葉県の30年後の将来像の提言」の進捗 (◎進捗している、○相応に進捗している、△あまり進捗がみられない)

東京湾岸	アクアライン・圏央道沿線	成田空港周辺・印旛	常磐・TX沿線	銚子・九十九里・南房総
○総合エンターテイメントとしての成長	◎圏央道の全線開通、アクアライン800円の恒常化による企業立地の促進	◎国家戦略特区を活用した内外の企業誘致の促進、成田・羽田空港の共存共栄	◎暮らしやすい住環境の整備促進	○長期滞在型リゾート・体験型観光の推進
◎国内外からの交流人口の流入増加	◎三井アウトレットパーク木更津など金田周辺地域の商業施設の賑わい	◎圏央道及び東関東自動車道の全通に伴う物流産業の立地促進	◎持続性の高い次世代の環境都市づくりの進展	○農業・漁業振興(6次産業化、大規模化・効率化、植物工場誘致、水産業の活性化など)
◎千葉駅ビル建て替えや千葉駅再開発に合わせた中心市街地活性化	○袖ヶ浦駅海側特定土地地区画整理事業と一体となった商業・居住エリアの形成	◎医療産業(医科大学や看護師養成機関等)の誘致	○国際交流都市づくりの推進	○医療・福祉・介護サービスの向上による日本を代表するようなシルバー타운構想の推進
○港の活用として千葉みなと地区や浦安のウォーターフロントとの相乗効果による交流	△京葉臨海コンビナートのマザー工場化、研究施設の誘致促進	△空港に近接する地の利を生かしたメディカルツーリズムの推進	△上記のまちづくりのノウハウの海外輸出	
△京葉食品コンビナートの利活用の促進	△環境・新エネルギー産業の支援・育成	○スカイアクセス沿線の都市化進展	◎公民学連携(特区)によるイノベーションの創出及びベンチャー企業の育成・強化	
		◎運用時間の延長や検問の全廃なども含めた利用しやすい空港づくりの推進(アジアのハブ空港化)		